

「二人の息子」のたとえ

マタイ福音書 21:28-32

(そのとき、イエスは祭司長や民の長老たちに言われた。) 「あなたたちはどう思うか。ある人に息子が二人いたが、彼は兄のところへ行き、『子よ、今日、ぶどう園へ行って働きなさい』と言った。兄は『いやです』と答えたが、後で考え直して出かけた。弟のところへも行って、同じことを言うと、弟は『お父さん、承知しました』と答えたが、出かけなかった。この二人のうち、どちらが父親の望みどおりにしたか。」彼らが「兄の方です」と言うと、イエスは言われた。「はっきり言うておく。徴税人や娼婦たちの方が、あなたたちより先に神の国に入るだろう。なぜなら、ヨハネが来て義の道を示したのに、あなたたちは彼を信ぜず、徴税人や娼婦たちは信じたからだ。あなたたちはそれを見ても、後で考え直して彼を信じようとしなかった。」

きょうのテキストは難解というより、普通に読むとおかしい点が二箇所あります。

ひとつは、聖書によっては兄と弟が入れ替わっている点です。今朗読した聖書(新共同訳聖書)では兄は口ではいやとிட்டが、実際はぶどう園にிட்ட。弟は口では行きますとிட்டが、実際はいかなかった、と記されています。ところが、新改訳聖書では兄は口では行く、弟は口では行かない、でも考え直して行った、と兄弟が入れ替わっています。(注1)

新約聖書の原本は見つかっていません。どこかにはある(あった)のでしょうか今はない、見つかっていません。でも写本はたくさんあり、それらの写本を元に現在の聖書は各国の原語に訳されています。訳される前の大元になるギリシア語新約聖書にはネストレ版と呼ばれる聖書が一番信頼できると評価され、いまの聖書の底本(ていほん)になっています。いまはネストレは

28版が最新ですが、26版から27版への改定の際にきょうの聖書箇所
の兄・弟逆転がおきています。どっちがっているのか、本当なのかとなると、
あいまいな返事になるのですが、どっちもあっているとしかいいようがあり
ません。写本には新共同訳（ネストレ27版）と新改訳（ネストレ26版）の両方が
現存しているからです。ただ、現在の聖書学の水準ではさきほど朗読した順
番が採用されています。

ややこしい話なのでわたしもこのマタイ21章の兄弟の順番問題にはいつも悩
まされます。でもどっちがどっちでもいいじゃないか、同じようなもの、よ
うは何をいっているのか、テキストはわたしたちになにを悟ってほしい
のかが大切だろうという見方もあります。その線でテキストを読んでみると、
きょうの箇所はふたつの事柄をいっているようです。

これが最初に言ったおかしな点の二点目です。

ぶどう園に行くいかない、返事と実際の行動のくい違い、前半部分を読めば、
このたとえ話は「言葉でどう応えるかではなく、行動で神に従うことが大切
である」ということを教えるたとえ話と理解できます。しかし、たとえ話か
ら導き出される教えの部分によれば、このたとえ話は洗礼者ヨハネのメッ
セージを受け入れた「徴税人や娼婦」と、受け入れなかった「祭司長や民の
長老」たちのことを表していて、行動の問題というよりも、「回心の呼びか
けを受け入れるかどうか」ということがポイントになっています。このよう
に「たとえ話」自体とその後の「教え」が一致していません。

この2点がおかしいなあ、わからんなあ、と感じるところです。

ざっくりまとめると、1点目は聖書学上でも兄・弟の順番問題がある（これは
兄がユダヤ人、弟が異邦人のたとえになっているという解釈をするならば、順番問題は
けっこう論点になります）

2点目は「たとえ」と「教え」のくい違いです。このくい違いから別々ののは

なしをくっつけた（マタイが編集した）という見方もできます。

でも、このおかしい点もひっくるめてきょうのテキストを読むというか味わうというか、深読みするとなにか不思議な導きを受け取ることができるのではないかと今は感じています。

ぶどう園で働くということは「神のもとで生きる」ことを喩えています。口ではいや、といっても考え直してぶどう園に行くということを神は望んでいます。その意味でだれでも、そしていつからでも、ぶどう園にいて働く＝神のもとで生きることができるし、それがみ心にかなうこと、だと。

口ではいい返事「ハイ」といっているのに実際は違う、これは表面的には言行不一致をいっているのですが、立ち返り、回心という視点から見ると意味が違ってきます。というのは「ハイ」と答える人、テキストでは弟は神とともに生きている（と思っている）からハイと答えています。だからわざわざぶどう園に行かなくてもいい、回心の必要はない、と自分では思っている、でも神の目からすると違うのだ、と。それは「祭司長や民の長老」たちと同じでおごっている、えらそうにしているだけじゃないか。いまがいい、とおもっていれば「考え直す」必要は感じないでしょう。

テキストのことば、聖書のことばを通して神のメッセージを受け止める、そのことを礼拝をとおしてわたしたちは行っていますが、きょうのテキストのようにテキストの範囲を超えて、底本問題、兄弟の順番問題、意味上のくい違い問題を読み取ることもできます。ということはいま世界でおきているさまざまな出来事をとおして神のメッセージ、呼びかけ、警告を受け取ることも神は望んでおられるということ、ともいえます。神のことばは聖書に記されていますが、聖書をはるかに超えたところに神はおられます。

注1：マタイ 21:28-30 日本語訳聖書の違い

「ところで、あなたたちはどう思うか。ある人に息子が二人いたが、彼は兄のところへ行き、『子よ、今日、ぶどう園へ行って働きなさい』と言った。兄は『いやです』と答えたが、後で考え直して出かけた。弟のところへも行って、同じことを言うと、弟は『お父さん、承知しました』と答えたが、出かけなかった。(新共同訳)

ところで、あなたがたは、どう思いますか。ある人にふたりの息子がいた。その人は兄のところに来て、『きょう、ぶどう園に行つて働いてくれ』と言つた。兄は答えて『行きます。お父さん』と言つたが、行かなかつた。それから、弟のところに来て、同じように言つた。ところが、弟は答えて『行きたくありません』と言つたが、あとから悪かつたと思つて出かけて行つた。(新改訳3版)
